

入学説明会の参加や教員面談を希望される場合は、必要事項を予約フォームに記載し、申込期間内に必ず予約してください。
詳細は申込先URLおよび二次元バーコードより確認してください。

[申込先]

<https://www.kyoto-art.ac.jp/graduate/admission/briefing/>

※教員面談の応募人数によっては個別面談ではなく、グループ面談になる可能性があります。



お問合せ先

京都芸術大学 大学院 ☎ 0120-591-200 (アドミッション・オフィス) ✉ graduate@office.kyoto-art.ac.jp

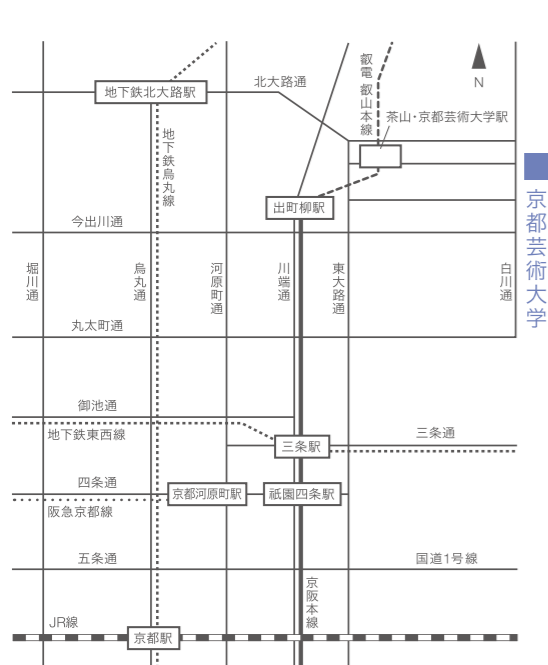
受付時間: 月～土 9:00～17:30 日曜・祝日・年末年始は受付できません。

通信制大学院 ☎ 0120-20-9141 ✉ tsushin@office.kyoto-art.ac.jp

修士課程 芸術専攻(通信教育)に関しては、大学Webサイトを確認ください。

海外事務所 ソウル事務所 TEL: +82 02-6953-2325 ✉ seoul@office.kyoto-art.ac.jp
台北事務所 TEL: +886 975-922-905 ✉ c-wu@office.kyoto-art.ac.jp
上海事務所 TEL: +86 156-1801-0354 ✉ shanghai@office.kyoto-art.ac.jp

アクセス

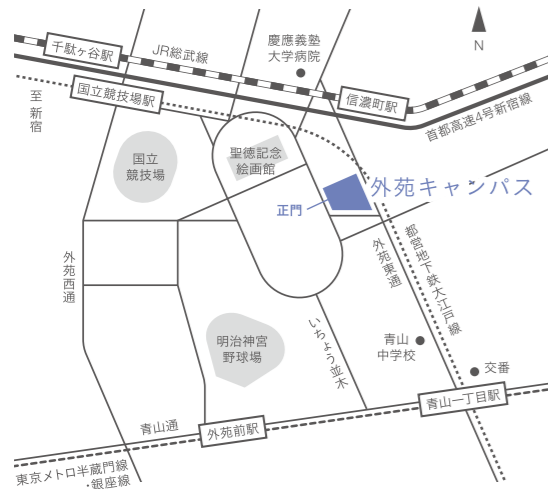


うりゅうやま
京都・瓜生山キャンパス
〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116

[交通機関]

- ▶ 地下鉄「北大路駅」(北大路駅バスターミナル)より
市バス204系統循環/
銀閣寺方面「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約15分)
※地下鉄北大路駅へはJR京都駅より約15分
- ▶ 京阪「出町柳駅」より
市バス上終町3系統/上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前行
「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約15分)
叡山電車(京阪「出町柳駅」乗りかえ)「茶山・京都芸術大学駅」下車後、徒歩約10分
- ▶ 阪急「京都河原町駅」より
市バス5系統/
銀閣寺・岩倉行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約30分)
市バス上終町3系統/
上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車
(所要時間約30分)
- ▶ JR「京都駅」より
市バス5系統/銀閣寺・岩倉行「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」下車(所要時間約50分)

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。
※本学には駐車場がありません。車・オートバイでの来学はご遠慮ください。
※本学の最寄りのバス停は「上終町・瓜生山学園 京都芸術大学前」です。



東京・外苑キャンパス
〒107-0061 東京都港区北青山1-7-15

[交通機関]

- ▶ JR総武線「信濃町駅」より
改札を左折、徒歩約5分
- ▶ 東京メトロ半蔵門線・銀座線・都営地下鉄大江戸線「青山一丁目駅」より
0番出口、徒歩約10分

※所要時間はあくまで参考としての標準時間です。
※本学には駐車場・駐輪場がありません。車・オートバイ・自転車での来学はご遠慮ください。

学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学 大学院

(URL) <https://www.kyoto-art.ac.jp/graduate/>

京都芸術大学 大学院

KYOTO UNIVERSITY OF THE ARTS GRADUATE SCHOOL

入学案内 2027



学校法人 瓜生山学園
京都芸術大学
大学院

この世界を、もっとしなやかに

この世界は、もっとしなやかになれるのではないだろうか。

人生は一本道を進むだけではなく、さまざまな可能性が広がっています。

芸術も、唯一の道しかないわけではなく、

その道筋そのものを新しく作り変えていくことができます。

そして芸術の面白さとは、現実と向きあいながらも、

それに衝突することなく、また折れることなく、しなやかに対応し、

まだ実現していない世界を作り出すところにあるのではないだろうか。

本学大学院では、芸術の既存のありかたを問い直し、

今日の社会のなかに創造性をどのように活かすことができるかを探究しています。

このこわばった世界に、大学院生たちがみずからの研究と制作を通じて一石を投じ、

それが起こしたさざなみを地上のいたるところに行き渡らせる。

それがこの大学院の使命です。

もちろん困難な仕事です。

しかしまたそれは刺激的であり、ワクワクする仕事です。

本学の大学院には、世界中から創造と研究を楽しんでいる学生が集まっています。

入学されるみなさんには、ここで出会った仲間とともに、

柔らかな思考によって、果敢に新しい価値を生み出し、

この世界にしなやかな弾みをもたらすことを願っています。

学長 佐藤 卓 Satoh Taku

1979年東京藝術大学デザイン科卒業、81年同大学院修了。株式会社電通を経て、84年独立。株式会社TSDO代表。商品パッケージやポスターなどのグラフィックデザインの他、施設のサインや商品のブランディング、企業のCIなどを中心に活動。代表作に「ロッテ キシリトールガム」「明治おいしい牛乳」パッケージデザイン、「PLEATS PLEASE ISSEY MIYAKE」グラフィックデザイン、「金沢21世紀美術館」「国立科学博物館」シンボルマークなど。また、NHK Eテレ「にほんごであそぼ」アートディレクター、「デザインあ」「デザインあneo」総合指導、21_21 DESIGN SIGHT館長を務め、展覧会も多数企画・開催。著書に『望する思考』（新潮社）、『マークの本』（紀伊國屋書店）、『Just Enough Design』（Chronicle Books）など。毎日デザイン賞、芸術選奨文部科学大臣賞、紫綬褒章他受賞。2025年4月京都芸術大学学長に就任。

学
長
メ
ッ
セ
ー
ジ

photo: Natsumi Kinugasa

京都芸術大学大学院 芸術研究科

研究科長メッセージ

【 拡張される芸術領域 】

社会を動かす知恵と技を手に入れる

今や芸術やそれをとりまく社会の変化は著しく、芸術の専門家に期待される役割も大きく変化しています。芸術とは、本来、社会から隔絶した特殊領域ではなく、さまざまな場面で創造的に発揮される知恵と技です。本学大学院では、現代社会の多様な領域で課題を発見し、創造的に提案できる人材を育成します。実践的な指導とともに、文明への批判的思考力を養うことで、研究者・制作者としての可能性を広げます。

【 創造と研究 】

創造の現場と、研究の現場の、緊密な連携

多彩な工房やスタジオ、研究センター、劇場施設を有する本学大学院では「創造の現場」と「研究の現場」が多様に連携し、多くの成果が生まれています。表現者は研究を通じて自己の活動を言語化し、新たな制作の可能性を見つけ、研究者は創作の過程に立ち会うことで、書物からは汲み取れない生きた芸術を学び取ります。多様な創造や研究が常に間近にある環境は、各自の活動に豊かな広がりをもたらしています。

【 インキュベーション 】

新たな芸術的キャリアを育む環境

今日、さまざまな領域で創造的なリーダーシップを発揮できる人材が求められています。本学大学院では、ICA京都やデザイン工芸研究センターをはじめとする研究センターと連携し、大学院生や修士のキャリア構築に向け、国内外での実践的なプロジェクトを多数展開しています。多様な国籍や背景を持つ学生が集う環境は国際感覚を養い、京都の地で学ぶ経験は、東アジアの芸術的成果を現代社会にどう活かすかについても貴重な示唆を与えてくれます。

芸術研究科長 上村 博 Uemura Hiroshi

京都大学大学院文学研究科博士課程中退。京都大学文学部哲学科助手、バリ第四大学研究員を経て、1995年より本学に勤務。2019年4月より現職。芸術の理論的研究、特に芸術による場所と記憶の形成作用について研究。主な論文に"Art in situ or the site as art: A Japanese reception of contemporary art" in Ch. Vial-Kayser, S. Coëllier (ed.), *Installation art as experience of self, in space and time*, Vernon Press, 2022. 共編著に『芸術環境を育てるために』（角川学芸出版、2010年）、「アートを書く、文化を編む」（京都芸術大学・東北芸術工科大学出版局 芸術学舎、2019年）など。

芸術専攻 [対面学習] 京都

少数精鋭で専門性と実践力を磨き、トップアーティスト・研究者への道を拓く

芸術実践領域

Contemporary Art Practice

- 油画 ● 日本画 ● 版画 ● 写真・映像 ● 彫刻・立体造形 ● 陶芸
- 染織テキスタイル ● パフォーマンス
- アート&キュレトリアル・プラクティス(Art & Curatorial Practices)

芸術文化研究領域

Arts and Culture Studies

- 文化財保存修復 ● 文化財科学 ● 文化研究
- 考古学 ● 日本庭園研究 ● 文化政策
- 芸術理論・芸術史 ● 美学 ● 舞台演劇研究

芸術環境専攻 [対面学習 + オンライン学習]

今日のさまざまな社会的課題を探究し、新たな文化的価値を創出する

情報デザイン・プロダクトデザイン領域 京都

Information Design and Product Design Field

- 情報デザイン ● グラフィックデザイン
- ビジュアルコミュニケーションデザイン
- デザインプロデュース ● プロダクトデザイン

イラストレーション・パブリッシングデザイン領域 京都

Illustration and Publishing Design Field

- イラストレーション ● ビジュアルアート
- マンガ・コミックイラストレーション ● 絵本・ブックアート

建築・環境デザイン領域 京都 東京

Architecture and Environmental Design Field

- 建築デザイン ● インテリアデザイン ● ランドスケープデザイン
- 都市・地域デザイン ● 日本庭園(設計、保全、活用)

※上記の分野を横断して学びます。

映像・メディアコンテンツ領域 京都

Image-Making and Media Content Research Field

- アニメーション ● キャラクターデザイン ● ゲームデザイン

- デジタルアート ● 映像 ● 映画 ● コンテンツプロデュース

文化デザイン・芸術教育領域 京都 東京

Cultural Design and Art Education Field

- 文化芸術教育 アートコミュニケーション、リカレント教育支援、インクルージョンデザイン、文化芸術研究
- 地域文化デザイン カルチュラルデザイン、サーキュラーデザイン、地域ブランディング、コクリエーション(Co-Creation)、文化資源活用

※上記の分野に関する修学地別のクラス・研究室が設置されます。

超域制作学プログラム 東京

Interdisciplinary Poietics Programs

- 名和ラボ
- 保科・大橋ラボ

※東京でのセミナーと京都や長野など各地の集中授業を通じて学びます。

芸術専攻(通信教育) [オンライン学習]

国内唯一、完全オンラインで芸術修士(MFA)が取得できる通信制大学院

学際デザイン研究領域

コミュニケーションデザイン領域

文芸領域

芸術学・文化遺産領域

写真・映像領域

メディアコンテンツ領域

美術・工芸領域(日本画・洋画・工芸デザイン)

書画領域

※2026年4月時点の情報となります。最新の情報は通信制大学院Webサイトにてご確認ください。

研究センター・附置機関との連携

「実践的かつ横断的な教育」の充実を目的とした各研究センター・附置機関主催による実践型授業「プロジェクト」や、芸術立国の理念のもと哲学や教育を学ぶ「文明と芸術の哲学」等を開講。学内外の人材をつなぐ教育課程の枠にとられない研究開発・人材育成を遂行します。



文明哲学研究所

本学の建学理念である「芸術立国」の根底にある「芸術とは何か」「人間とは何か」という問いに向き合い、多面的なアプローチで明らかにすることを目指しています。

実施授業 「芸術立国」の理念を体現するため、万物の根幹にある人間の心について考え哲学的基礎体力の養成を目的とします。



ICA京都 Institute of Contemporary Arts Kyoto

京都と世界をつなぐ開かれたプラットフォームとなり、これからのアートシーンでグローバルに活躍する人材の育成と、アジアを中心としたアーティストやキュレーターのネットワーク構築に取り組みます。

実施授業 世界を俯瞰的に捉え、自らの視点を育み、国際舞台へ踏み出す力を養うことを目的に、世界各地からアーティストやキュレーターを招聘し、英語による特別集中授業を行います。



アルトテック ARTOTHÈQUE

大学院附属の商業ギャラリーとして、次世代の若い才能を支援しています。ARTISTS' FAIR KYOTOや企業との連携を通じて、在学生・修生の活躍の場を創出しています。

実施授業 現代美術と古美術のマーケット構造を実地調査を通じて研究するとともに、創作活動と並行しながら、市場という存在を客観視する力を養います。



日本庭園・歴史遺産研究センター

文化財の調査や保存修理などの受託事業に取り組むほか、公開講座や専門セミナーを開催しています。大学院生もプロジェクトに参加し実践的な力を身につけることができます。

実施授業 2026年度は「博物館資料の調査・保全」と「日本庭園を通して日本文化を世界に発信する」の2つのプロジェクトを提供します。



舞台芸術研究センター

「京都芸術劇場」を運営し、学内外の研究員および他研究機関との連携を行う当センターは「創造の現場」と「学術研究」との有機的な結びつきを推進しています。

実施授業 舞台芸術を起点に、実践者の哲学と社会との関係を横断的に考察し、多様な分野へ展開可能な思考力と視座を養います。



デザイン工芸研究センター

デザイン工芸研究センターは、工芸の中にデザイン感覚を見出し、またデザインを伝統技術でサポートすることで、日本の工芸を世界へ発信し、新しい芸術人材の育成を行います。

実施授業 IDK「プロジェクト実践演習8・9」:『なおす』ことで、壊れる前よりも大きな価値を獲得するプロジェクトおよび伝統的な作品に新たな価値を与えるプロジェクトを実践します。

大学院リエゾン室 ー芸術の知を、社会の価値へー

表現や研究を「仕事」として成立させるために、専門的なキャリア形成を支援する大学院リエゾン室を設置しています。学内外の専門機関や行政とのネットワークを駆使し、大学院生の研究・制作を実社会のプロジェクトの中で実践する機会を創出します。 ※修士課程 芸術専攻(通信教育)および博士課程は対象外

各専攻の詳細やカリキュラム、指導教員一覧は大学Webサイトをご確認ください。



芸術専攻 [対面学習]

「研究」のみ、あるいは「研究」と「制作」により、博士号取得を目指す

研究

学内外の研究機関、制作者、研究者と交流しつつ、自らの研究課題を追求し、独自の学問的領域を確立。

研究・制作

制作に関わる媒体、歴史、社会環境などの理論的研究を進めつつ、各分野で制作者としての自立を目指す。